



与野本町小だより

～かしこい子 心ゆたかな子 たくましい子 助け合う子～
ニコニコ・しっかり・美しく（本町の心）

8・9月号

令和8年8月26日

さいたま市立与野本町小学校

コーチングマインド

校長 小野圭司

7月15日(水)の放課後、本校では東京ガス星光会会長の阿久根謙司氏を講師にお招きし、教職員を対象としたコーチング研修を実施しました。

研修の中で私が最も印象に残ったのは、「**コーチングマインド**」という考え方です。**コーチングマインドとは、相手の話に根気強く耳を傾け、気持ちに共感し、否定せずに最後まで聴く姿勢のこと**です。阿久根氏は、そのイメージを「恋人になるかならないかという相手の話を、嫌われないように真剣に聴くのと同じ」と説明されていました。

また、「ティーチングは指示・命令」「コーチングは質問・提案」とも教えていただきました。私たち教師には、子どもたちに教えたり指示したりする役割があります。私自身も以前は担任として子どもたちに授業を行い、現在は校長として教職員に指示や伝達をすることが多くあります。そのため、どうしてもティーチングが中心になりがちです。しかし、それだけでは子どもたちも教職員も自立することができない、とのことでした。

阿久根氏は2011年から4年間、JリーグFC東京の社長を務められた方であり、コーチングの第一人者としても知られています。J2に降格していたチームをわずか1年でJ1に復帰させたことでも有名ですが、その背景にはコーチングを生かした組織づくりがあったそうです。その他、私が印象に残った内容を紹介します。

- ◆大人（先生や親）が「失敗させたくない」という思いから、ミスの指摘や欠点の修正ばかりを行うと、子どもは次第に自分で考えたり挑戦したりしなくなる。
- ◆子どもの自己肯定感が低くなる大きな要因の一つは、大人が認めるよりも先に否定してしまうことにある。
- ◎大人の役目は、子どもが自立し、一人で生きていける力を身に付けられるよう支援することである。
- ◎失敗を自分で取り戻し、成功につなげた経験は、逆境に負けない力や臨機応変に対応する力を育てる。一方で、大人がすべて指示してしまうと、そのような成長の機会を奪ってしまうことになる。
- ◎コーチングとは、子どもが自ら考え、工夫し、自発的に行動するための環境をつくるコミュニケーションマインドである。
- ◎**コーチングマインド**では、うまくいったときの行動や工夫に着目し、その理由を振り返らせながら認めていく。例えば、次のような会話では、大人が頭ごなしに注意するのではなく、子どもが以前うまくできた経験に着目し、その理由や工夫を振り返らせている。そうすることで、子ども自身が解決策を考え、自ら行動を選択する力を育てることにつながる。
大人「今日はまだ宿題をやっていないんだね。どうしたの？」
子ども「ゲームをやっている。」
大人「ゲームは楽しいよね。」
大人「でも昨日は、この時間には宿題が終わっていたね。どうしてできたのかな？」
子ども「Aくんと遊ぶ約束があったから、その前にやったんだ。」
大人「なるほど。遊ぶ前に済ませたんだね。すごいね。どんなことを考えていたの？」
子ども「遊んだ後だと遅くなるし、疲れちゃうから。」
大人「そうだね。遅くなるし疲れるものね。だから先に宿題をやったんだね。」
大人「じゃあ、明日はどうしてみようか？」
子ども「ゲームの前にやろうかな。」
大人「それはいい考えだね。遊ぶ約束があるときと同じ工夫ができそうだね。」

本校が今年度重点的に取り組んでいる「自己調整力の育成」にも、この考え方は通じています。自分で気づき、選び、整える力は、将来子どもたちが自立して生きていくために欠かせない力です。ぜひ、ご家庭や地域においても、**コーチングマインド**を意識しながら子どもたちと関わっていただければ幸いです。2学期もどうぞよろしくお願いいたします。